

Q：授乳中の予防接種はどのようにすればよいでしょうか。

A：授乳中の女性への予防接種については、明確なデータはないものの、仮に母乳中にワクチン成分が分泌されていてもごく微量であり乳児に与える影響はないと考えられます。

また、母体にできた抗体が母乳中に移行することも考えられますが、乳児に対する効果は期待できません。

生ワクチン、特に風しん含有ワクチン接種では、風しんワクチンウイルスが乳汁中に分泌され、乳児に移行することはありますが、乳児に十分な風疹の免疫を与えるほどには至らず、乳児に感染あるいは反応が認められることもありません。

米国では風疹感受性者（風疹に対する免疫を持たない者）への風しんワクチンは、出産後入院中に実施することが推奨されています。

わが国でも、平成 16（2004）年 9 月の厚生労働科学研究班（研究代表者：岡部信彦、分担研究者：平原史樹）「風疹流行及び先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言」では、妊娠中の検査で風疹HI抗体価が 16 以下であった者に対して、出産後早期：入院中（出産直後）あるいは 1 か月健診の時期等の風しんワクチン接種（麻しん風しん混合（MR）ワクチン）が勧められています。